



21 世紀への挑戦

日本初の科学宇宙飛行士 毛利 衛さん（日本科学未来館創設名誉館長）

2000年2月は2回目の宇宙飛行でしたが、このたびは陸地の立体地図をつくるために地球上を丸く182周しました。そのため南米大陸エクアドルの赤道上也20回以上通過したと思います。スペースシャトルの窓からみえる地球は、当たり前のこととはいえ、間違いなく地球は球体だということがよくわかります。色は全体が青色ですが、その青も単なる青ではなくて、燃えるような濃い色合いでした。そして、地球の表面は白い雲でところどころ覆われていて、特にアンデスは高い峰々が多く、万年雪が雲とは違う様々な表情や色合いをみせてくれるのが楽しかったです。



スペースシャトルは、地球のまわりをわずか90分で一周しますから、二十四時間のうちに16回朝と夕をみるわけです。地球の表面を見ると、太陽に照らされている部分が昼間で、その逆の部分が夜、それぞれに陸地がありそこに住む人々にはそれぞれの時間があるのだということがわかります。例えば今いるところで太陽が真上で照らしていると昼間で、その逆の部分が夜になっていて、それぞれの違った場所では、時間も違っているのだということがわかります。例えば赤道直下のエクアドルでは太陽が真上に輝いていて正午。それが20分もすればアマゾンの森林地帯を飛び越えてヨーロッパ大陸へ行ってしまう。そこではみんなが夕飯をたべている。そのあと、北に回ってロシアを通り、モンゴル、アジアへと近づくともおう完全に夜になっています。今回、日本を通る時は夜の時が多かったのですが、みんな寝ているのだなと思っているうちにすぐに朝がやってきて、太平洋を横切って地球ぐるりひと回転90分で一日が終わります。わたしの時計の文字盤は長方形の世界地図なのでその場所に合わせて時間が変わりますが、私自身90分で一日を過ごすわけにはいきません。時間というのは相対的なのだなというよくわかります。また、宇宙から地球をみて感じることは、人間というのは相対的なのだということがわかります。また、宇宙から地球を見て地球を見て感じることは、人間というのはそんなに見えてこなくて、大きく見えるのは森林なのです。そういう森の中にはおおくの生命が住んでいるんだらうなというのが非常に感じられることでした。今回アマゾンの熱帯雨林を自分の足で歩きながらいろいろな思いが宇宙と重なってありました。多種多様な生命が息づくジャングルで人間も溶け込んで住んではいますが、そこに油田基地があったり、銀色の送油管が走っていたりすると異様に感じられ、人間だけはちょっと外れているのではないかという気持ちになりました。

私が宇宙飛行士を志したのは14歳の時でした。ガガーリン少佐が初めて宇宙を飛んで私の夢はかけたてられました。当時日本人が宇宙飛行士になるのは実現不可能でしたから、せめて何か新しいことを発見したいと思って、小学生の時からラジオを作るのが好きで理科クラブに入ってゲルマニウム・ラジオを組み立てたり、そのあとは真空管ラジオをクラブの先生と作って短波放送をきいていました。



日本にいて地球の反対側からの声がきけることにワクワクしながら中学から高校にかけてラジオをきいていました。科学者になってから宇宙で仕事をする科学者を募集しているという広告がきっかけで少年時代の夢がかなって宇宙飛行士になれたのです。

人生は挑戦の連続です。とくに若い人は自分の人生をかけてやってみたいとおもうことに挑戦してください。挑戦することで人生はいきいきとしてきます。くれば必ず夢は実現するものです（HCJB スタジオと日本科学未来館でのインタビューから抜粋）

サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手 尾崎一夫 毎週土曜日放送

淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放送

8月 3日	女ばかり南米大陸をゆく（26）	8月 4日	「お便り交換の時間」
8月10日	マリンバの調べ	8月11日	聖書遊覧バス 詩篇70篇
8月17日	アメリカ大陸新発見（29）アラスカ州	8月18日	聖書遊覧バス 詩篇71篇
8月24日	女ばかり南米大陸をゆく（27）最終回	8月25日	聖書遊覧バス 詩篇72篇

放送後の番組は、ホームページ(<http://reachbeyond.chowder.jp>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3 形式）



放送時間：日本時間 午前7時半～8時 17650kHz（再放送）午後8時～8時30分 15460kHz
（米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信）

